

「税について」

福岡市立博多中学校

石井 彰悟

私には96才になる曾祖母がいる。曾祖母は、家の廊下で転倒し、骨折した。それから介護が必要な生活が始まった。介護するということが、それは簡単なことではない。祖母が、曾祖母の介護をする様子を見て初めて介護がどれだけ大変なことか理解した。

現在、日本は高齢化社会だ。高齢者が高齢者の介護をするいわゆる老々介護は深刻な問題だ。我が家もその典型的な例だろう。

祖母は70代で元気な人だ。しかし、元気だからといって若い人のように動けるわけではない。腰や足も痛そうにしている。祖母が曾祖母の介護で無理を重ねていたある時、ケアマネージャーが家に来た。曾祖母の介護認定をするためだ。認定されると様々な福祉サービスを受けられるようになる。

曾祖母の要介護認定が確定し、デイサービスを利用することになった。短時間の利用だが、祖母が最も気にしていたお風呂も、デイサービスで入れてもらえるという。それを聞いた時は、祖母の負担が減ることに安堵した。そして、それらのサービスは税金が充てられていて、経済的な負担を軽減してくれるのだと聞いた。介護をするためには、思った以上に経済的負担がかかるという。そのため、介護する人は、経済的な理由から、自らの時間と体力を費し介護していることも少なくないと耳にする。だから、本当に税金のありがたみを感じた瞬間だった。

これまで税金に対して、深く考えることもなかったが、消費税が上がる時など不満を耳にすることが多かったことを思い出した。その時は、税金が上がることだけに目がいっていたが、こうやって税金に助けられているということを知った今、自分自身の納税について考えた。

これから僕達が大人になった時、さらに高齢化社会は進んでいるだろう。そして、高齢者を支える若い世代は減少しているという現実。私達若い世代が、税についてもっと意識しなければ、きっと明るい未来は遠くなってしまうだろう。

私達は、人と人々が互いに支え、支えられている。税金はその中の一つの形なのではないだろうか。納税するということが、自分自身のためでもあり、そして誰かのためになるものなのだ。そうやって、互いに助け合いながら私達は、未来へつないでいかなければならない。皆が、優しく暖かな社会の中で暮らす未来であることを願う。

私は、曾祖母の介護という点から、税金について考えるきっかけをもらったことは、とてもよい機会だったと思う。

これから私は、よりよい未来のためにも、しっかり責任を持ち、納税義務をはたしたいと思っている。